

前書き

PREDEF 内に列挙したものは前付として章採番なしです。後付の POSTDEF も同様。
PREDEF 内/POSTDEF のリストの採番表記は「リスト 1」のようになります: リスト 1
(正確には `il8n.yml/locale.yml` の `format_number_header_without_chapter` が使われます)
リスト 1: `main()`

```
int
main(int argc, char **argv)
{
    puts("OK");
    return 0;
}
```

図 (図 1)、表 (表 1) も同様に章番号なしです。

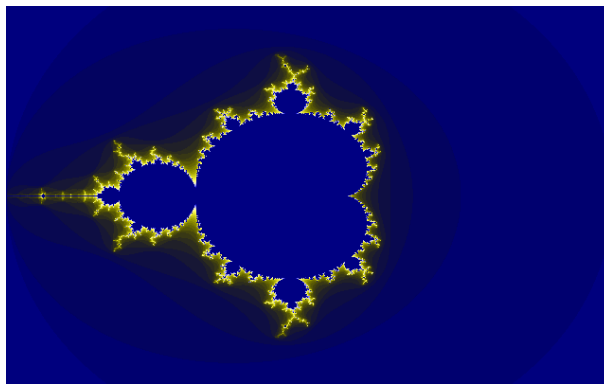


図 1.1 フラクタル

表 1.1 前付表

A	B
C	D

目次

前書き	i
第 I 部 部見出し	1
第 1 章 章見出し	3
1.1 節見出し	3
1.1.1 項見出し……に脚注を入れると <i>TeX</i> ではエラー	3
1.2 長い節見出し	4
1.2.1 長い項見出し	4
採番しない項見出し	4
1.2.2 採番する項見出し	4
nodisp で隠れた見出し	4
1.3 簡条書き	4
1.3.1 ナカグロ簡条書き	5
1.3.2 番号簡条書き	5
1.3.3 用語リスト	5
第 II 部 部見出し	7
第 2 章 長い章見出し	11
2.1 ブロック命令	11
2.1.1 ソースコード	11
2.1.2 図	12
2.1.3 表	12
2.1.4 囲み記事	14
2.2 LaTeX 式	19
2.3 インライン命令	19
2.3.1 書体	19
2.3.2 参照	21
2.3.3 参考文献	21
2.3.4 索引	21

第3章 コラム	23
付録 A 付録の見出し	27
A.1 付録の節	27
A.1.1 付録の項	27
参考文献	29

第Ⅰ部 部扉見出し

第 1 章 章見出し

章にはリードが入ることがあります。図版や表が入ることはまずありませんが、太字くらいは使われることも。

複数段落になる可能性もあります。

段落は普通に書き連ねていくだけです。段落間は空行を含めます。

こんなかんじ

です。空けない場合は、1 つの段落として結合されます。TeX と違って文字種によって良い塩梅にスペースを入れてくれたりはしないので、特に英文の場合は注意が必要です。this is a pen. と「apen」になってしまいます。行頭行末のスペース文字も詰められてしまうので、this is a pen. は途中改行せずに記述しなければなりません。

通常段落は「字下げ」することを想定して表現されますが、たとえばコードをまたぐ

```
'hello!' 'こんにちは World!'
```

ようにしたい場合は、またいだ後の段落前に「//noindent」を入れておくことで字下げを抑止できます（そもそもこういうまたぎ行為は筆者の好みではありませんが）。

1.1 節見出し

=の数で見出しレベルを表しますが、最大=====の 5 レベルまでの見出しがあり得ます（内部的にはレベル 6 まであるけれども非推奨で、一部のビルダでは動かない）。

- = : 章および部
- == : 節
- === : 項
- ==== : 段
- ===== : レベル 5 見出し

「X.X.X」のように採番するか否かは `config.yml` の `secnolevel` パラメータで変動します¹⁾。デフォルトは 2 (X.X まで) ですが、このリファレンスドキュメントでは一応 4 (X.X.X.X) まで採番を試みています。

1) 前述したように `PREDEF`、`POSTDEF` の場合は採番しません。

1.3 箇条書き

1.3.1 ナカグロ箇条書き

ナカグロ箇条書き (HTML の *ul*、TeX の *itemize*) はスペース+*+スペースで表現します。インラインタグが含まれることがあります。

- 箇条書き 1
- 箇条書き 2 太字 **bold** *italic* イタ等幅 `code`
入れ子ナカグロ箇条書きもあります。

- 箇条書き 1
 - 箇条書き 1-1
 - 箇条書き 1-2
 - * 箇条書き 1-2-1

- 箇条書き 2
 - 箇条書き 2-1

箇条書きの間に別の要素 (ぶらさがりの段落など) が入ることは標準では対応しておらず、どうしてもそういうのが必要な場合は途中でフックして変換後ソースを書き換えることになります。

1.3.2 番号箇条書き

番号箇条書き (HTML の *ol*、TeX の *enumerate*) はスペース+数字.+スペースで表現します。

- 1 箇条書き 1
- 2 箇条書き 2 太字 **bold** 等幅 `code`

`olnum` で一応番号が変更可能なことを期待していますが、Web ブラウザだとだめなことが多いかもしれません。

- 10 箇条書き 10
- 11 箇条書き 11

1.3.3 用語リスト

用語リスト (HTML の *dl*、TeX の *description*) はスペース+:+スペースで見出しを、説明は行頭にタブかスペースを入れて表現します。

Alphabold 太字 *italic* イタ等幅 `code`

DEC の作っていた **RISC CPU**。 *italic* イタ等幅 `code` 浮動小数点数演算が速い。

POWER

IBM とモトローラが共同製作した RISC CPU。

派生として POWER PC がある。

SPARC

Sun が作っている RISC CPU。CPU 数を増やすのが得意。

bold 太字 *italic イタ*

```
: Alpha@<b>{bold 太字}<i>{italic イタ}<tt>{等幅 code}
    @<i>{DEC}の作っていた@<b>{RISC CPU}。@<i>{italic イタ}<tt>{等幅 code}
    浮動小数点数演算が速い。

: POWER
    IBM とモトローラが共同製作した RISC CPU。@<br>{
    派生として POWER PC がある。

: SPARC
    Sun が作っている RISC CPU。
    CPU 数を増やすのが得意。←ふきだし説明
```

説明文に複数の段落を入れることは構文上できないので、@
{ }を入れて改行することで代替します。

第Ⅱ部 部見出し ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■
□ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■
□ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □

部のリード。部は `catalog.yml` で直接指定することもできるし（その場合は見出しのみとなる）、`re` ファイルで内容を記述することもできるようにしています。部の番号表記を `I` にしたり `1` にしたりするのは `i18n.yml/locale.yml` の定義です。

第2章 長い章見出し

2.1 ブロック命令

2.1.1 ソースコード

採番付きリストの場合は `list` です（リスト 2.1）。

リスト 2.1: **Ruby** の `hello` コード¹⁾

```
puts 'Hello, World!'
```

行番号と採番付きのリストは `listnum` です。

リスト 2.2: 行番号はリテラルな文字で特に加工はしていない

```
1: class Hello
2:   def initialize
3:     @msg = 'Hello, World!'
4:   end
5: end
```

採番なしは `emlist` を使います。キャプションはあったりなかったりします。

```
printf("hello");
```

Python 記法

```
print('hello');
```

行番号付きのパターンとして `emlistnum` があります。

1) コードハイライトは外部パッケージに委任しています。TeX では `jlisting`、HTML では `Rouge` ?

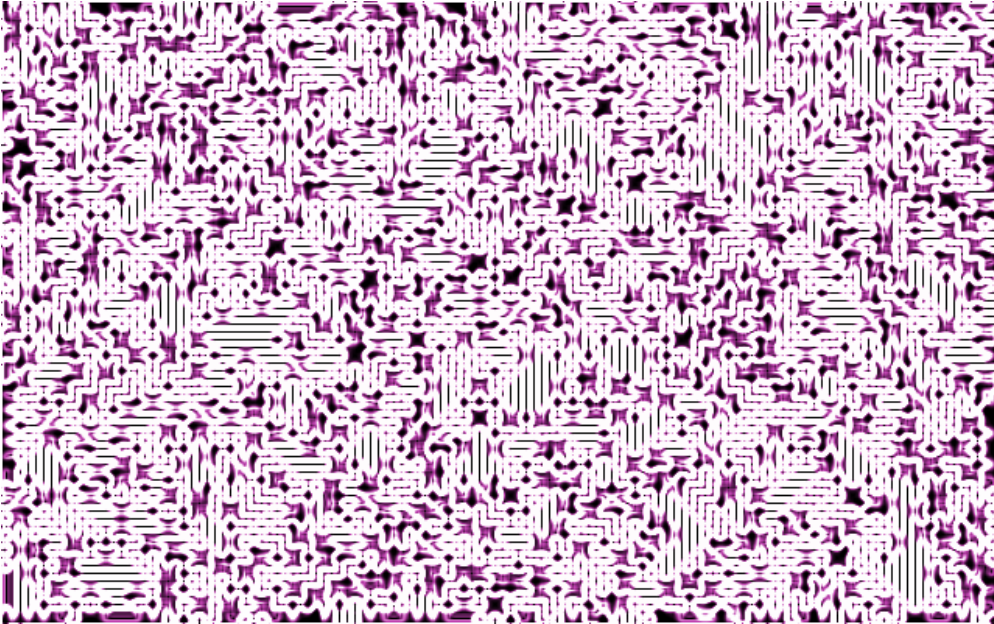


図 2.2 0

図: 採番なしキャプション

2.1.4 囲み記事

//{~//}の囲み記事の中には段落のみしか入らないものと想定します（箇条書きなどを入れたい場合はユーザーの責任で適宜、変換後ソースを加工してもらうことを前提とします）。

引用は `quote` で表現します。上下アキ、左インデント（2 文字くらい？）が入るのが一般的でしょうか。

ここに引用文。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`

2 行目の引用文。

中寄せは `centering` です。

中寄せ本文。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`

2 行目の中寄せ本文。

右寄せは `flushright` です。

右寄せ本文。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`

2 行目の右寄せ本文。

ノート `note`。以降、キャプションあり/なしのパターンがあります。表現については結局紙面デザインに応じて千差万別になるものだと思いますので、基本デザインとしては何か囲み要素だとわかって、カスタマイズしやすければよい、という程度です。

表 2.3 ポンチ表

A	B
人	猫

NOTE ノートの例太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

ノート 1。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

ノート 2。

NOTE

ノート。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

メモ memo。

MEMO メモの例太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

メモ 1。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

メモ 2。

MEMO

メモ。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

Tips tip。

Tips Tips の例太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

Tips1。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

Tips2。

Tips

Tips。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

情報 info。

INFORMATION 情報の例太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

情報 1。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

情報 2。

INFORMATION

情報。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

注意 warning。

WARNING! 注意の例太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

注意 1。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

注意 2。

WARNING!

注意。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 code

重要 important。

NOTICE 脚注がある注意^a

^a notice の見出し側脚注です。

こちらにも脚注^a

^a notice の文章側脚注です。

2.2 LaTeX 式

LaTeX 式は TeX 紙面以外は保証されません。EPUB では MathML (`mathml: true`) を使えますが、表現や互換性が不足しており、LaTeX をバックエンドとして画像化する `imgmath: true` のほうがよさそうです。

$$\sum_{i=1}^n f_n(x)$$
$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix}$$

式採番がほしいケースは多々発生しているので、標準の文法を拡張する必要があるように思っています（現状、`review-ext.rb` でなんとかしていることが多いです）。

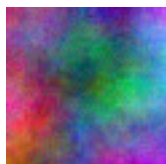
段落中の式は $E = mc^2$ というシンプルなものならまだよいのですが、 $\sinh^{-1} x = \log(x + \sqrt{x^2 + 1})$ のような形だと}のエスケープで読みにくめです。今のところ Ruby にあるようなフェンス文法を実装するのも難しいですね。 $\sum_{i=1}^n \sum_{i=1}^n$

2.3 インライン命令

2.3.1 書体

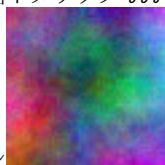
本文での……キーワードキーワード (`keyword`)⁶⁾、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 `tt` 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線下線、等幅 `code` 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ `ami` アミ、16 進 UTF 文字指定あ、インラインアイコン

6) キーワードのカッコは太字にしないほうがいいのかと思います（手元の案件では太字にしないよう挙動を変えてしまっているほうが多い）。



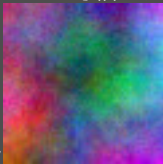
傍点^{がくぜん}bou傍点、愕然、縦中横@<tcy>{90}、は TeX では現状、別パッケージが必要です。

- kw, b, strong, em は同じ書体でよいでしょう。
- tt, code は同じ書体でよいでしょう。
- ami はコードブロックの中で使うことを想定しています。
- 箇条書き内での……キーワードキーワード (keyword)、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 tt 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線 u 下線、等幅 code 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ ami アミ、16 進 UTF 文字指定あ、インライ



ンアイコン

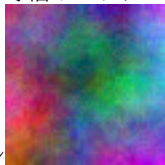
表内での……キーワードキーワード (keyword)、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 tt 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線 u 下線、等幅 code 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ ami アミ、16 進 UTF 文字



指定あ、インラインアイコン

コードブロック内では対応装飾は減らしてよいと考えます。代わりに balloon が追加されます。

キャプション内での……キーワードキーワード (keyword)、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 tt 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線 u 下線、等幅 code 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ ami アミ、16 進 UTF 文字指定あ、インラインア



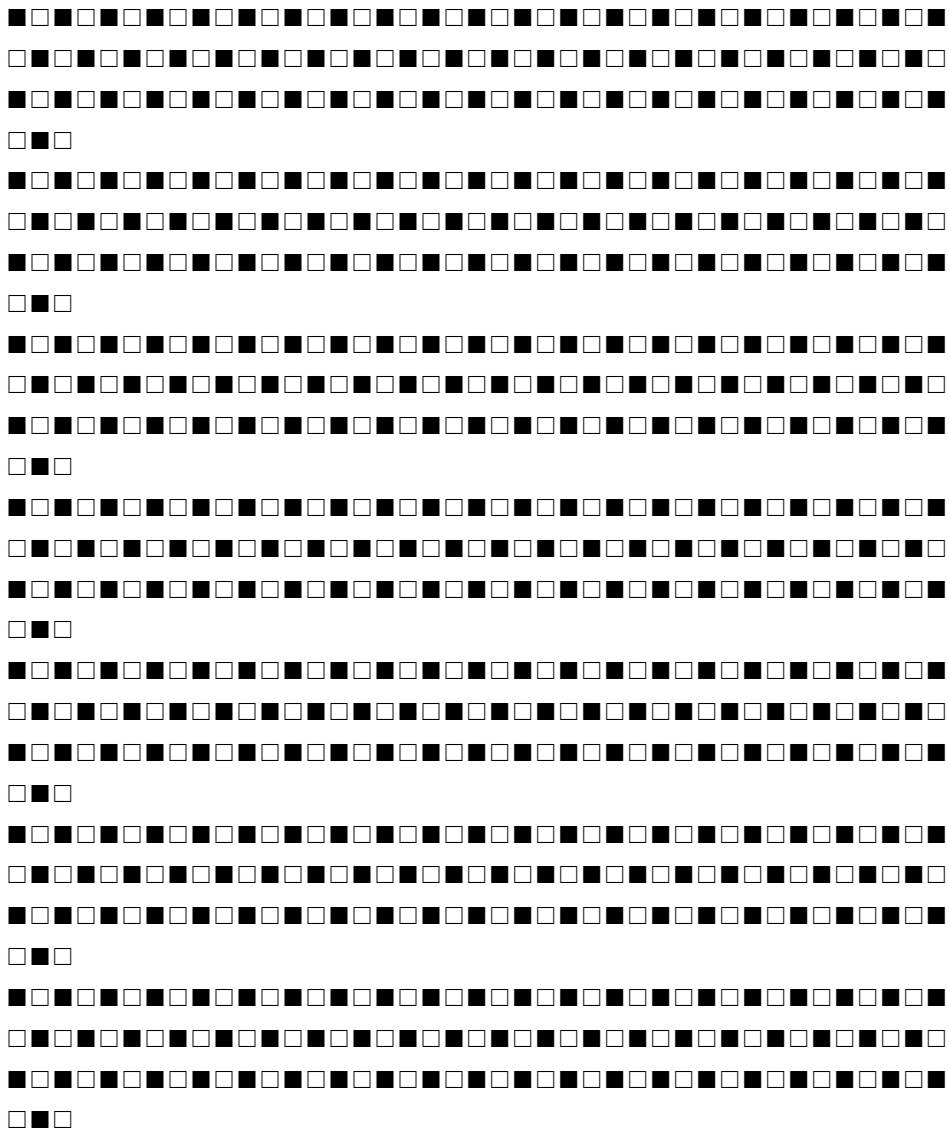
アイコン

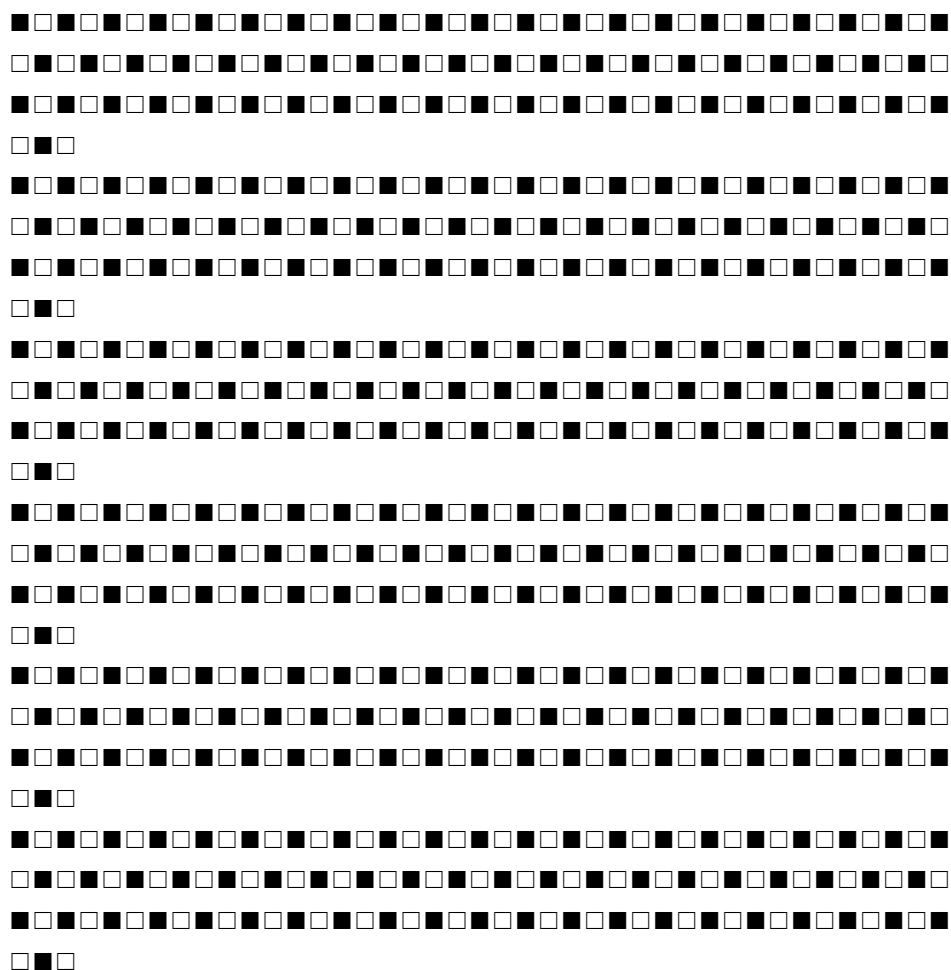
コードブロック内での……
太字 **b** 太字
イタリック *i* イタリック

- a* コラム見出しの脚注です。
b コラム内からの脚注です。

コラムその2

長い長いコラム。





参照はコラム「コラムその2」です。

付録 A 付録の見出し

A.1 付録の節

A.1.1 付録の項

A.1.1.1 付録の段

リスト A.1、図 A.1、表 A.1
リスト A.1: Hello

```
os.println("Hello");
```

表 A.1 付録表、見出し行なし（左 1 列目を見出しと見なす）

a	1
b	2
c	3

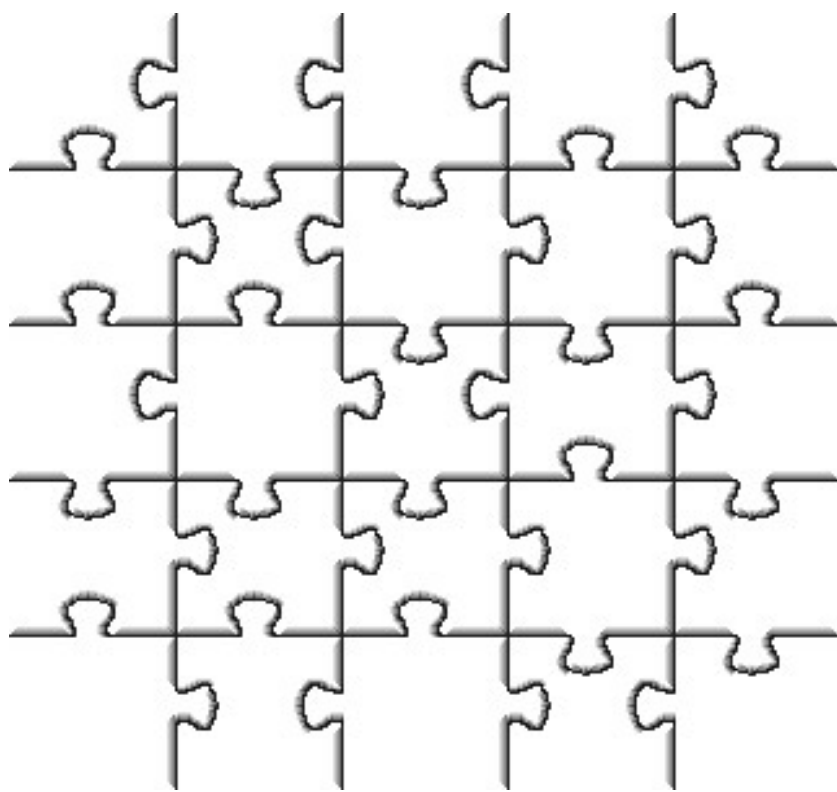


図 A.1 パズル

参考文献

[1] Lins, 1991

Refael D. Lins. A shared memory architecture for parallel study of algorithms for cyclic reference_counting. Technical Report 92, Computing Laboratory, The University of Kent at Canterbury, August 1991